

## 別紙様式 2

### 鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（平成 29 年度報告）

#### 1 事業実施に関する項目

市町名	伊方町
協議会名	伊方町有害鳥獣連絡会
事業実施年度	平成 26～29 年度
対象地域	愛媛県西宇和郡伊方町全域
対象鳥獣	イノシシ、カラス、ヒヨドリ

#### 2 事業効果の発現状況

伊方町は、平成 19 年 6 月 19 日に伊方町有害鳥獣連絡会を設立し、野生鳥獣による被害防止対策の充実、強化を図るとともに、関係機関連携の下、総合的な被害防止体系を確立し、農林業の被害軽減等に資する取り組みを行っている。

捕獲等に関する取り組みとして、平成 26 年度に箱わな 1 基、平成 28 年度に箱わな 3 基、ドッグナビ 3 台、センサーカメラ 1 台、平成 29 年度に箱わな 13 基、ドッグナビ 3 台を整備した。また、平成 29 年度においては狩猟者確保のため、免許取得に係る講習会の補助を 6 名に行っている。また、地元猟友会を中心とした捕獲について、平成 26 年度はイノシシ 547 頭、カラス 4 羽、ヒヨドリ 214 羽、平成 27 年度はイノシシ 719 頭、カラス 3 羽、ヒヨドリ 23 羽、平成 28 年度はイノシシ 632 頭、カラス 5 羽、平成 29 年度はイノシシ 632 頭、カラス 7 羽を捕獲（いずれも狩猟による捕獲を含む）しており一定の捕獲実績を上げている。

防護柵の設置等に関する取り組みとして、平成 26 年度に 11,540m、平成 27 年度に 2,319m、平成 28 年度に 2,220m、平成 29 年度に 3,346mの広域防護柵を整備し、農作物被害の軽減を図っているところである。

これらの取り組みにより、防護柵を設置した農地では被害が軽減されているが、未整備地区での被害が増加傾向にあることから、長期的な対策が今後も必要となっている。

また猟友会員の高齢化等に伴う担い手の減少が懸念されており、狩猟免許取得を推進するため、免許取得講習会参加補助を実施し人材確保への取組を積極的に行うなど、捕獲計画頭数達成へ向けて継続して取り組む必要がある。

### 3 各事業の内容と事業効果に関する項目

事業内容	事業量	管理主体	供用開始時期	利用率稼働率	事業効果
<b>【国補助事業】</b> 箱わな整備 スマートセンサー整備  箱わな整備 ドッグナビ整備 センサーカメラ整備  箱わな整備 ドッグナビ整備	1 基 1 台  3 基 3 セット 1 台  13 基 3 セット+狩猟者端末 9 台	伊方町有害鳥獣連絡会 〃 〃 〃 〃 〃	H27.3 H27.3  H29.1 H29.1 H29.1  H30.2 H30.1	100% 100%  100% 100% 100%  100% 100%	侵入防止柵の整備と合わせ、箱わなを設置したことにより効率的に捕獲が行えた。 また一部、ICT を組み合わせることで捕獲作業の負担軽減が図られた。
<b>【国補助事業】</b> 緊急捕獲	平成 26 年度 イ/シ (成 149 頭、幼 44 頭) 平成 27 年度 イ/シ (成 159 頭、幼 47 頭) 平成 28 年度 イ/シ (成 160 頭、幼 29 頭) 平成 29 年度 イ/シ (成 112 頭、幼 0 頭)	—	—	—	本事業による平成 26 年度の捕獲実績は 193 頭、平成 27 年度の捕獲実績は 206 頭、平成 28 年度の捕獲実績は 189 頭、平成 29 年度の捕獲実績は 112 頭であった。
<b>【国補助事業】</b> 防護柵 (ワイヤーメッシュ)	7,210m  4,330m	伊方町大浜、三机、松、井野浦地区  伊方町中浦地区	H27.3  H27.3	100%  100%	防護柵を設置した地域においては、農作物の被害を軽減できたが、未整備地区での被害が増加傾向にあることから、引き続き対策を図る必要がある。

	2,319m	伊方町湊浦、伊方越、九町地区	H28. 2	100%	
	2,220m	伊方町中浦、足成、松地区	H28. 10	100%	
	3,346m	伊方町大浜、大江、釜木井野浦地区	H30. 2	100%	
<b>【県補助事業】</b>					
防護柵 (ワイヤーメッシュ)	15,280m	個人・受益者	H27. 3	100%	
	7,100m	個人・受益者	H28. 3	100%	
	13,656m	個人・受益者	H29. 3	100%	
	14,200m	個人・受益者	H30. 3	100%	
電気柵	2,000m	個人・受益者	H27. 3	100%	
	3,500m	個人・受益者	H28. 3	100%	
	11,750m	個人・受益者	H30. 3	100%	

#### 4 被害防止計画の目標と実績

##### (1) 被害防止計画の目標達成状況

被害面積の削減については、農業者の自衛意識により、各種補助事業を活用した個人による防護柵設置及び広域防護柵設置により、防護柵の整備が平成26年度を除き計画を下回り、未だに被害面積は目標値に届いていない。今後も対策の効率化と周辺全体

が護れる環境を整えるため、広域的な防護柵の設置を推進する。

被害金額については、目標値を大きく下回り効果が得られていない。これは鳥類対策としての防鳥ネットの整備が図られていないことや、イノシシ対策としての防護柵の対応未実施の箇所へ被害が集中していることが考えられる。

捕獲に関しては、捕獲機材の導入及び捕獲奨励金等の助成を行い個体数減少に努め、3年間の計画頭数を合計で約100頭上回る事ができた。また平成29年度においても600頭を超える捕獲実績となっている。これは現在までの捕獲の取り組みが評価されるものであるが、現状の被害状況を考えると、捕獲圧をさらに高める必要があり、今後も引き続き捕獲対策を継続していかなければならない。さらには自衛できる農業者の育成を図る観点から、農業者自らによる捕獲を奨励し、狩猟免許取得や被害軽減に効果的な知識・技術の習得のための研修会を開催して、被害対策の担い手育成を図っていく。

これらの対策と同時に、農業者、各中山間集落協定には農地の管理、耕作放棄地の解消に向けた取り組みを指導し、対象鳥獣を寄せ付けない環境づくりに努める。依然として農業者からの目撃・被害情報は後を絶たない中、鳥獣害対策は継続的で気の長い取り組みが重要となるので、これからも補助事業等を有効活用し被害減少に努めていきたい。

## (2) 被害目標数値に対する実績

被害防止計画の目標と実績							事業実施主体の評価
対象鳥獣	被害金額 (千円)			被害面積 (ha)			
	目標値	実績値	達成率 (%)	目標値	実績値	達成率 (%)	
イノシシ	6,960	20,470	0.0	3.73	7.65	0.0	<p>全ての対象鳥獣において、被害金額及び面積ともに目標値を達成できていない。捕獲頭数は計画を上回っており、防護柵の設置もこれまでの実績や、計画は達成できていない年度もあるが、概ね設置が進んでいるにもかかわらず、目標値を達成できていないのは、防護柵を設置していない農地での被害がさらに深刻化していることや、現在の捕獲頭数では生息数の減少には至っていない現状がうかがえる。</p> <p>狩猟免許の新規取得を推進するなど、捕獲体制の更なる充実を図り捕獲圧を高める必要がある。また、補助事業等を有効活用し防護柵の計画的な設置を進めていく必要がある。</p>
カラス	2,480	6,057	0.0	1.82	2.90	0.0	
ヒヨドリ	3,680	5,990	0.0	2.02	4.25	0.0	
合計	13,120	32,517	0.0	7.57	14.80	0.0	

5 第三者の意見 意見者（愛媛県南予地方局産業経済部八幡浜支局地域農業育成室）

コメント	<p>伊方町は、鳥獣害防止計画を樹立するとともに伊方町有害鳥獣連絡会を設立し、毎年度、関係機関が連携・協議して、目標達成に向けた野生鳥獣による被害防止対策に取り組み、本事業を活用して捕獲体制の強化と防護柵等による被害軽減など総合的な被害防止対策を推進している。</p> <p>しかしながら、捕獲実績については、イノシシの捕獲頭数で一定の実績を上げているが、カラスやヒヨドリなど鳥類を含めた被害軽減効果は依然として目標値に届かない状況であり、更に効果的・効率的な捕獲対策に取り組む必要があると考えられる。また、侵入防止対策についても、国・県の補助事業を積極的に活用し集落単位での広域・共助的な柵の設置や施設設置に取り組んでおり一定の効果は認めるものの、未設置の農地で被害が発生しており全体的な被害軽減に繋がっていないと考えられる。</p> <p>今後は、各種の対策を講じた中でも被害軽減が図れない要因分析、一層の捕獲・侵入防止対策の徹底と住民が一丸となった被害軽減対策推進の機運醸成に努めるとともに、猟友会メンバーの高齢化に伴う狩猟免許の新規取得や技術の向上を図りながら、補助事業等を積極的に活用した防護柵の計画的な設置を進めることが重要と考える。</p>
------	---